

職員宿舎の設置について

統合新病院における職員宿舎運営の検討

基本構想における職員宿舎

○第3章 1-7. 統合新病院の医師確保

宿舎等の福利厚生面についても充実させ、医師が継続して働きやすい環境を整えます。

○統合新病院の建設事業費

（百万円）

項目	概要	事業費
建設工事費	本体・外構・駐車場 （設計費等含む）	6,056
医療機器等	医療機器・医療情報システム	1,960
用地費等	用地取得、造成・基盤整備	1,500
付帯施設	職員宿舎等	225

職員宿舎の現状

病 院	職員宿舎種類	建物形態	建築年月	戸数	入居数	備考
加賀市民病院	医師用(世帯用)	戸建て	S52.3	2戸	2戸	
	医師用(世帯用)	集合住宅	S55.9	3戸	2戸	※1
	医師用(世帯用)	集合住宅	S60.3	4戸	4戸	
	医師用	集合住宅	(借り上げ)	9戸	9戸	※2
山中温泉医療センター	職員宿舎	集合住宅	S45.2	20戸	6戸	※3
	職員宿舎(単身者)	集合住宅	H15.3	17戸	9戸	※4
合 計				55戸	32戸	

※1 7月に1名入居予定。

※2 病院から2km以内のアパート等を1戸単位で借上げしている。

※3 職種の限定なし。入居数とは別に研修学生の宿舎として空室2戸を使用している。使用していない部屋は老朽化のため入居できない状況となっている。

※4 看護師宿舎であったが、現在は職種の限定なし。入居数とは別に研修医の宿舎として空室3戸を使用している。

職員宿舎の確保について

	メリット	デメリット
① 統合新病院敷地内に職員宿舎を建設する	・ 福利厚生面の充実により医療従事者の確保に有利 ・ 緊急時に短時間で出勤できる	・ 新築に伴う建設コストがかかる ・ 維持費のほか、老朽化の際には改築も必要 ・ 統合新病院の駐車場などの面積が減少する
② 統合新病院周辺で職員宿舎として部屋を賃借する	・ 福利厚生面の充実により医療従事者の確保に有利 ・ 緊急時に短時間で出勤できる ・ 必要数に合わせて確保できる ・ 建物の老朽化にも借り換えなどで対応できる	・ 病院から多少遠くなる場合がある ・ 継続的に賃借料がかかる

職員宿舎確保の方向性

- 加賀温泉駅周辺には民間賃貸住宅が多く建設されている。
- 維持費や将来の老朽化などを考慮すると、職員宿舎を建設するより、近隣の民間賃貸住宅を借り上げる方が効率的と思われる。
- 一括借上げを条件に民間事業者に希望する条件の住宅を建設させることも考えられる。
- 跡地活用との調整は必要だが、比較的新しい山中温泉医療センターの職員宿舎(看護師宿舎)については継続利用することが考えられる。